

KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげを ZO・7

11M 8642
10M 96

E.R | A.P

プリリアントな
夏の装いのために——



ネックレス ¥2,500,000

今月のご紹介商品は、スモーキートパーズの
カメオのついたネックレスです。カメオだけ
を取り外すとブローチとしてもお使いいただ
けます。その日の服装に合わせて、この夏の
ファッショントをお楽しみください。



ブローチ ¥1,200,000

WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls
**KINOSHITA
PEARL
CO.,LTD.**

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)
TEL (078)221-3170
10:00AM~6:00PM (木曜日も営業をしています)



この夏も
いい夏しまあ～す。

MACスタッフ一同

マリンできめた
MACの
アイドルたち



本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895
プレザーショップ/トアロード (078) 391-0896
ドルチェマック/三宮センター街 (078) 332-0141

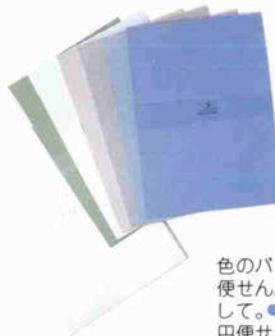
京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857
姫路店/FESTA 2,3F (0792) 89-4738
宝塚店/宝塚南口サンビオラ3F (0797) 71-4830

キラリ、新発見

まあ、うれしい。感度がいいわ、と包みをあけると表情キラキラ。幸せなあの顔、この顔に、出会えるような、好感いっぱいの品々をフロアに輝かせています。心と心をしっかりと結ぶ贈り物を、大切な人のもとへ。夏の素敵なお中元。**夏の贈り物は大丸。**



ジヨイしてね。●マンハッタン／カン
ジユアルシヤツ3,900
田■1階ザ・シャツショップ。



色のバラエティが楽しい封筒と便せん。お好みの色をセットにして。●ユンケラー/封筒各950円便せん各750円■6階ステーションナリーコーナー



ピッカピカに磨いて
男（女）をあげてく
ださいな。●かる石
250円コルクブラシ
1,200円タワシブラ
シ 900円■4階バス
用品売場



○ ● イ 藏元からご家庭へ直送です。
○ ○ 小鼓純米酒
○ 円 ■ 地生15本入
○ 1階酒売場



おしゃれなティーパーティ
をどうぞ。(時には、私も招待
してね) ●テーブルギャラリー/シ
ヤルマンゴブレット 2,700円コーヒー
カップ&ソーサー 2,600円デザート皿 1,8
00円など ■5階テーブルギャラリーコーナー



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

ワルイのは、
大胆が似合うボディです。



サマーパンスは、いつもとちがう自分になれるとき。

モーニングシャワーできのうを流し、リッチな気分で、シャルレを選ぶ。今日の私は、モダンなレース使いに包まれます。

ちょっと大胆なデザインは、夏を愉しむおんなの気持ち。

さあ、大人のボディに洗練されたヨーロピアンエレガンス咲かせましょう。

おんなは、美意識過剰でいいのですから。

•

シャルレ商品はホームパーティー形式の「試着会」でたのしく、納得して、お選びいただけます。

シャルレ

本社/神戸市中央区港島中町7丁目7番1

☎ 078(302)7171㈹

上/FA-091 ブラジャー(ホワイト) ¥3,200 下/IB-071 ショーツ(ホワイト) ¥1,500

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道します
これは神戸つ子の心の手帖です

7月号目次 1986・No.303

- 表紙／小磯良平
セカンドカバー／中西勝／世界の物売り／19／モロッコ
神戸つ子／86／村尾重紀・島田誠
ある集い／①兵庫県楽部写真同好会②ドルフィンスポーツクラブ
コウベスマップ／神戸まつり・神戸外大記念式典
詩画集「四季詩」多田智満著・繪／石阪春生
神戸の物語／緒方しげる
わたしの意見／陳（港）
隨想／山中聰・井上豊子・椎炳佑
エッセイ／服部正 カット／杉浦祐二
こうべ味な旅2 藤本義一 カット／石阪春生
KOBE音楽夜話／14／森下悦伸
地域文化論79／米花穂
特集 国際交流神戸事情／海野光子／大曾根男／住野和子／佐藤直邦／田嶋克己
経済ボケットジャーナル
キャンペーン／国際文化都市神戸を考える／104
個別大学の枠を越えた国際交流の進展を
新野幸次郎／後藤幸男／武田 建／山口光朝／森 恒夫
神戸まつり／ここがよかつた／アンケート
タカラヅカ対談／但馬久美＆大浦みづき
話題のひろば①能福寺看山式／有沢先生祝賀会
ファвшисьン・スポット
ファвшисьン・ウォッチング／南電子
神戸のお嬢さん／エリザベスランブリンクアナ・バディイ
もうさんのHYOGO-WALK／相生ベーロン祭
コービーブレイク
動物園飼育日記／28／龜井一成
小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／松本幸三
神戸の集いから
スボーツエッセイ／甲斐泰雄／バードマン会
有馬歳時期／7月
出会いの旅／外園一人
再びプロフェッサーPの研究室／岡田 淳
KOBE MODERN CULTURE
神戸百店会だより
KFSニュース
ひとつぶ
ボケットジャーナル
小間三平のやぶにらみ見聞録9市内定期観光バスはゆく
連載小説オレンジ色の闇舟木かな子／カット／岩島雅彦
魔女学入門／文・ソニキリテース 繪／マダム最世子
海・船・港／神戸港開港120年記念連載その1／海市悠太郎
カメラ／米田定義・池田年夫・坂上正治・松原卓也

カット／杉山知子



昭和61年度会友募集

一枚のカードが
あなたの暮らしをクリエイト



文化協会の20周年を記念し、特製の会員証(テレホンカード)を贈呈。このチャンスをお見逃しなく。

★会友の特典

- 文化情報誌の送付
『ひょうご文化』、『協会だより』が年6回それぞれ無料で送付されます。
 - 優れた舞台芸術が割引料金で
(協会の指定したもの)
ピッコロシアター・兵庫県民小劇場・神戸文化ホール
姫路市文化センター・尼崎アルカイックホールほか
 - 県立近代美術館・県立歴史博物館での特典館主催の特別展・常設展が無料

★会費 年額3,000円(法人会員10,000円)
郵便振替(神戸2-926)でも申し込みます。

お問い合わせ、お申し込み先

兵庫県文化協会

〒650 神戸市中央区下山手通4-16-3 ☎078-321-2131

十二代目鶴川團十郎與多浦司

松竹大歌謡伎 特別公演



勸善報 · 四神



100

9月23日(火・祝)24日(水)

■入場料 特等席 5,000円 1等席 4,000円 2等席 3,000円
3等席 2,000円 学生券 1,500円(当日指定)

■前売所 神戸文化ホール、さんちか、国際会館、大丸垂水、須磨パティオ、(大阪)阪急・阪神の各プレイガイド



神戸文化ホール

TEL (078) 351-3535

新宿・高野
BONFUKAYA

リザ・サロン

グルラン

ココ山岡

VICKY

LEE SOPHY

ELLE

アベニュー22

ブライダルサロン・ルーブル

ダイアナ

サイズショップ・ダイアナ

OFU

CLAUDE LEMA

ZAZIE

LE.MON TEA

三愛

SUMMER RESORT FAIR



FASHION
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間—— A.M11:00~ P.M8:00

PHONE ————— 078(332)1698



● BARRLEYバーレイ(リビングセット)構材、パープルブラック色(肘) フレンチグレー
張布は個性的なローズカラーのニットスエード地、テーブルTOPは陶板を採用しています。

あかり/遠藤照明協賛

「今! 感性がほとばしるインテリア」
森繁のリビング家具フェア
(ヨーロッパ版画展も同時開催)

予告 7月24日(木)~29日(火) 於: さんちかホールにて

新築・増改築・御結婚などのご予定の方は、御参考までにぜひお立ち寄りくださいませ。

お問い合わせは

株式会社 江戸屋家具店

本店 / 神戸市兵庫区塚本通2-1-1 ☎078(575)3120代



☆私の意見

孫文生誕120年を 機にさらなる 日中友好の輪を

陳 德仁

△社団法人神戸中華總商会会長▽



現在、神戸在住の華僑は約八千人といわれていますが、その内、実社会で活躍されているのは約二五〇〇人ほどだと思います。世界の華僑総人口が三千万人ということを考えると、神戸の華僑は、数の上ではほんのわずかですが、日中交流には、十分活躍していると 思います。

たとえば神戸には、私が館長を勤めている華僑歴史博物館がありますが、これまで、日本における華僑史を中心に紹介してきました。ところがこのほど、福建省廈門にある華僑博物院と提携したのを機に、お互いに資料を交換し合い、神戸の皆さんにも、中国の歴史・文物を知っていただき、中国側にも神戸の事情を分つてもらいまい、相互理解をさらに深めようと考えています。

また広東にある暨南大学は今年、創立八十周年を迎えますが、訪中の折り向こうの華僑史の研究者にお会いして、われわれ神戸の華僑について、もっと理解を深めてもらおうと思っています。

逆に神戸の華僑で本国に貢献した人も少なくありません。なかでも舞子の八角堂（現・神戸孫中山紀念館）を建てた吳錦堂は有名です。彼は祖国に学校を建てたり、治水工事を施したり、その貢献度は計り知れません。

このように、われわれにとって中国との関係は、單なる日中交流ということよりも、むしろ祖国に対する愛情でつながっているといえます。

神戸と中国との歴史を見たとき、忘れることが出来ないのが孫文です。今年は孫文生誕一二〇周年に当たり、中国でもいろいろな行事が計画されていますが、その一つとして、孫文の生涯をとりあげた大スケタル映画が、広東省珠江電映公司的手によって製作されています。私はこの秋に予定されている神戸での孫文生誕一二〇周年の記念行事に間に合えばぜひ上映をしたいと申し入れています。この映画によって、神戸市民の皆さんに、日中交流史の一端に触れていただければ、相互の友情はますます深まるだろうと思っています。

（談）

想



<あやとり／山中 馨>

思い出の海と 風景の中の海

山中 馨
△画家▽



鳴門の渦潮は日本一勇壮で変化に富んだ潮流は世界一であろう。桜鯛の一本釣りでも有名でその味は日本一旨い。突き抜けるような青い西浦の海も好きだ。沼島や岩屋、対岸にある須磨や舞子の海も好きだし、毎日登山で早朝保久良から眺める大阪湾の海も捨てたものでない。霜柱の立つ冬など実に美しい。八三年の

夏、スケッチブックをほっぱらかして泳いだエーゲ海も、そしてナポリの海も好きだ。しかし、ガキの頃から体で覚えた塩辛い由良や洲本の海はもっと好きである。それは骨までしみついている潮の匂のある「思い出の海」と「風景の中の海」との差であろうか。私の絵のどこかによく登場する海はきっと「しょっぱい思い出の海」なのだろう。

ボーウ、ボーウと鈍い霧笛の音が薄明りのもやの中を漂いながらしきりに鳴いていた。船室からてきた少年が不安そうに神戸通いの連絡船のデッキにつかまりボツンと立っている。今にも泣きだし

たい気持をこらえながら見えないものを必死になつて見ようとして赤くなつた眼をこすつている。突然鼻の先に漁舟が現れ消えていった。「オウー」声にもならない声が咽仏あたりに引っかかり大きな息をつく。四辺は前にも増して真綿で覆われたような異様な灰色の世界に包まれ、恐怖と不安で船底を打つ微かな波の音を追いながら手をのばせばすぐそこにあるはずの海を見たいと願つた。空と海の境を失つて少年だけがふあーと宙に浮んでいる。船に乗つていることの実感さえない、視界〇メートル、いままだ誰も経験したことのない死の世界へ落ちて行くのではないかと思つた。突然長い尾を引いたような霧笛の中でエンジンが始動しはじめ、船首がぐるりと百八十度回転した。少年は洲本港へ引っかえすのだと直感した。少し落ちついた歩幅で一等の船室に入るなりそこに釘づけになり息をつめた。真紅なバラ色の服を着た少女がきれいな女の膝の上

で「あやとり」をしていました。

次の日は晴天で雲一つない、やがて神戸港に近づく頃には申し合せたように船室からぞろぞろデッキに出てくる。左に川崎造船所のドックに入った外国船を眺めながら、ふと外國へ行ってみたいと少年は思つた。速度をおとしながら船は中突堤に入る。海はキラキラと輝いて六甲山麓に点在する白い洋風の建物が緑の中で美しく息づいて見える。少年のすぐ目の前で「あやとり」をしていたおさげの可愛い少女がきれいな女に抱かれて棧橋に降りた。

神戸、私の好きな街

井上 豊子

（スワイヤー客船課）

午後七時、山の手のあるレストラン。お隣りのテーブルは中年のすてきなカップル人々息子さんの大学生活の事やらお嬢さんの受験の話が聞えています。後ろのテーブルはやたらにぎやかな八人ほどのグループ。ドイツ語、フランス語、日本語に中国語が混り合って楽しそう。目があうと笑みかけてくれる。私たちも

グラスを持ってお返しに笑んで乾杯。この情景どこかで味わったことがある——。

そう船の上のレストラン。

食事つて会話というソースをかけ笑みというスパイスで味付けして食べると改めて知ったあのレストランです。

テレビも新聞もない毎日、

あるのは太陽、潮風、波の音、船上の時計はとてもなくゆっくり動いているみたい。老夫婦がいたわり合うように手をとり合いデッキを散歩している。波の上下に過去と現在が映画のように目眩めき、海という大きなスククリーンにそれぞれが主人公になって自由に演じている。センチメンタルでコケテッシュでロマンチックでドラマチックな回想。

何時間も手をとり合いその回景がとてもうらやましい。

船を降りるとあわただしい生活の中に吸い込まれてしまふ。腕時計は船の時間の三倍の早さで時を刻み続けている。目がまわつてしまわないのが不思議。せめてゆっくり食事がしたい。会話というソース

グラスを持つてお返しに笑んで乾杯。この情景どこかで味わったことがある——。

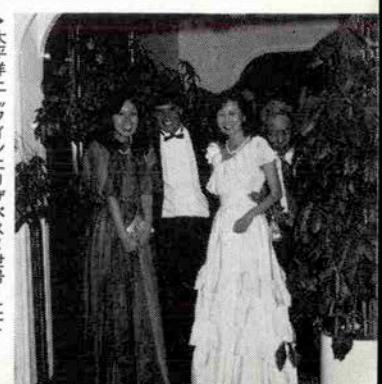
神戸は家族単位、夫婦単位の社交の街というイメージ。大人の女性が、男性が、優雅に歩き、おしゃべりをし、食事を楽しめる街。神戸のおしゃれは船のイメージと言われるけれど、生活パターンもやはり船から育ってきたのかしら。私はそんな神戸が大好きです。

・コーラルプリンセス入港予定△7月15日△

PM4:00神戸港着。横浜行き。16日午前中出航（福井の女子短大生の修学旅行）20日朝神戸港に。

△7月21日△

PM11:00韓国にむけて出航の予定。24日神戸港に。



▲太平洋上「グインエリザベス2世号」にて
△筆者右から二人目△

「風とコスモス」

—出版を終えて

権炳佑

△在日大韓民国婦人会兵庫県地方本部会長▽

無我夢中で生きてきた六十
年……。やつと自分の身辺を見まわす、心の余裕が出来た
ような気がいたします。

その気持のゆとりから、果たして私のこれまでの人生と

は、一体何だったろう、と思う反省と懐旧の思いが混有する心境が芽生え、赤裸々な「自分の生き様」を飛躍台に人生八十年代の挑戦を期した意義を複合的に考えた末、自分の半生記を書き綴りたい気持を整理しはじめたのが、ちょうど五年ほど前にもなりました。

その間、事業の拡大と身病との闘いに明け暮れながら、



あいさつする権さん（右）坂井知事のあいさつ（左）

余暇にまかせて収集した薄れた記憶と記録資料を辿る作業の難渋さ、書いては消し、消してはまた書くといった日々

を数え、これまでの私の人生を支え、励まして下さった多くの善意に満ちた方たちとの、文中での再会を唯一の楽しみに、今日、ようやく脱稿することが出来ました。

毎朝、亡夫のにおいがこもる洋服タンスをあけるたびに「あなた、今日も私を守つて下さいね」と心に念じながらそれこそ亡夫とともに生きてきた激動の日々。「正直」「誠実」「努力」を座右の銘に一生懸命に生きてまいりました。

家庭における味噌汁の味にもそれぞれに幅があります。その幅のように人生それぞれの生き方の味も違うものです。その味は人につくつてもらうものではなく十人十色、自分で味付けする個性的なものでなければいけないと思うのです。隣の芝生は青く見えるときがあるかも知れないけれどやはり自分の家の芝生の青さをも認める、自分の持つ家庭の味をみつけることが大事

なことのように思います。

人間社会が形成される過程にとの不思議な出会いがあるかと思ひます。お金といふのは、ある程度本人の努力によって貯蓄は出来るかも知れません。しかし心の中に貯めることは至難の業かと思います。私にとりましては、これまで、人の出会いを大事にしてきましたし、それがほ

んとうに心の大きな財産だと思っております。よく恋人の代わりは若い時代から出来るけれども友だちの代わりは出 来にくいと申します。

私たちが生活を営為し仕事をしていくプロセスで友だちが占める割合は大きなものがあります。私はそのような友人たちをこれからも大事にして心の寄り所にしていきたいと心に念じております。

木洩れ日が若葉の隙間から季節の微風を運んでくれています。これからも精一杯、いつまでもこの微風のように初々しく明るい気持で、限りある人生を生きてまいりたいと 思います。

女たちの世紀

服部 正

(神戸市婦人問題推進懇話会長)

カット／杉浦祐二



「女時」という言葉をご存知ですか？

「時の間にも男時女時とて有るべし」と「風姿花伝」にあり、この二つは対になっています。少年時代、初めてこの言葉に出会いまして、男時は雄壮なふるい立つような気分の時、女時はしっとりと優しく暖かい気分の時と勝手にきめこんでしました。ところが後に辞書をひいて見てピックリしました。

「一切の勝負に定めて一方色めきて善き時分になる事あり。これを○時と心得べし」という時の○は女か、男かというと何と正解は男時…つまり、ついでない時が女時、運のむいている方が男時で、これではまさしく女性蔑視そのものの用語といわねばなりません。

しかし、よく考えて見ますと、古代、中世はいふに及ばず、近世も近代も女たちにとつては、まさに悪い意味での女時の連続だったではあります。女は苦しく、辛く、むごく、そして悲しかった。私の小学生時代に出版された「女工哀史」

ひとつとて見ても、自分の同時代のこととは思えぬような凄惨な記録で溢れています。

今はどうでしょうか。社会福祉の世界ではよく「今、ここで」といいます。「今、ここで、その人のために」と。女性たちは明るく、朗かで、歌い、踊っているではないか。とくに神戸の街では。女たちは美しい。輝やいている。今や、哀れなのは男の方だ、という人さえあります。

ところで一九八五年、去年という年は、後二、三世紀もしたら記憶されることが残ると思われますか？日航機墜落の惨事も、おそらく半世紀たてば忘れられるでしょう。

しかし、ナイロビ会議の年として、ひょっとすると未来の受験生は、一九八五年を一生懸命覚えることになるかも知れません。「社会参加と平等」をスローガンとする「国連婦人の十年」の最終年、そして21世紀に向う女性の「平等・発展・平和」の「十五年戦略」の出発の年として――。歴史とはそういうものです。産業革命が始まった

時、全世界の幾人がその深い意味に気づいたでしょうか。表面的にはダブルの服地の注文にこたえるため、織機にバネをつけて杼を飛ばすくふうをしたというだけのことしかなかつたのですから……。やがて、これが現在の文明社会を導き出すであろうと誰が考えたでしょうか。

その産業革命に匹敵するのがナイロビ会議だといわれるのです。男女の役割分担の終結、性差別の撤廃、そして新らしい性平等の実現を目指す「十五年戦略」は、今月で第一年を経過します。

ケニアといえばサファリでしか知られていないかつたこの国へ、一年前の今月、日本からはアメリカにつぐ多数の女性が出かけました。NGOフォーラムと呼ばれる民間人の自主的なシンポジウムは一六〇か国の婦人の百花争鳴でした。とりわけ注目を浴びたのは名古屋市のパートタイムの主婦グループでした。いわば女性ゲリラです。

——ここはアフリカ、それなのになぜこの会議の公用語は英独仏と、かつての宗主国、支配者の言語なの? どうして母國語で訴えないの? 私たちは日本語でお話します! 日本のパートタイム労働の実態を訴え始めた彼女たちの仲間は、英仏の同時通訳もやってのけます。名古屋の主婦たちは、かくて各国の女性をひきつけました。

愛知県下には「東海あごら」と名乗る女性集団が活躍しています。(アゴラとは古代都市国家アテネの核ともいうべき廣場のこと) 無名の主婦が結集し、文化的ゲリラ化(?) したのは、夫の転勤で名古屋へ転居し、古いしきたりや、封建的氣風に抵抗し始めたのがきっかけだそうです。

神戸に転勤して来た人は停年後もここに住み続

けたいと願うとは、よくいわれる話ですが、その住み心地の良さ、優れたファッショントップス、洗練された風俗、文化ゲリラ発生の余地はなさそうですね。

しかし、女性優位のようでも、たとえば神戸市は女性教育委員のいない政令都市として有名(?) ですし、この四月、灘区役所にたつた一人の女性課長が発令されただけで地方版のトップニュースになりました。大阪市では既に何十人もの一般事務職の女性課長がいますし、部長もいます。来年は局長も出る予定だそうです。(大阪市長に聞いた話ですが)

私は、女も男も人間として自由になるための主張としてのニュー・フェミニズムの時代を待望していますが、そのためにも神戸に文化的女性ゲリラ出でよ、と呼びかけたいのです。

「女たちの世紀—近代日本のヒロイン群像(朝日カルチャーブックス・大阪書籍)」という私の近著に寄せられた他府県の読者からのお便りには、さすが神戸ならではの発想などと、くすぐったい讃辞が多いのですが、本当は逆なのです。この本の第五章「明日へ翔ぶ女性たち」などは、東海あごらの美女たちの全面的協力からなるものです。

我が愛する神戸の女性の方々に、カゲキな刺激をと覚悟してこの本を書きました。袋叩きになれば本望です。それはゲリラ発生を意味しますから、女たちの男時が来たのですから!

女たちの世紀(大阪書籍刊 ￥1,200)

〔筆者紹介〕



一九一九年、東京に生まれる。関西学院大学文学部卒業、医学博士。大阪社会事業短期大学長、兼大阪府立社会福祉事業研究修習所長、大阪府立大学教授などを経て、現在、松蔭女子学院大学教授。神戸芸術文化会議議長。「女性心理学」等著書多数。

好きな飲む店 食べる店

藤本義一 (サントリー宣伝部制作室)
カット／石阪春生

親友にして詩人の各務豊和くんが、かつて日東書林に勤めていた頃「ナイト・イン・コウベ」を企画編集していて、バーの紹介文を頼まれたことがある。神戸新聞が同様のものを刊行するようになった以前のこと、15年もまえだった。「私の好きな8軒の酒場」はこうして活字になった。3年まえ新聞で、神戸のクラシックバーを私家刊でとりあげた小冊子『酒場の絵本』の刊行を知り、版元へ手紙を書いて送つてもらつたら、当時、私の書いた店の4~5軒が入つてゐる「赤ひょうたん」の奥にあつた「アドニス・サルン」や「キングス・アームス」の少し北にあつた「テキサス・タバーン」のように、姿を消した店もあるが、ほかにもクラシック・バーがあるのを知つて、小躍りした。帰神すると京大的学生だった次男とそれらの店で泊り木に坐つた。コニャックをストレートで啜りながら、親子で、私が戦後初めて入つた酒場の話をしたりした。あれは現在コスモポリタン・モロゾフの店になつてゐる北隣り、確か鍊瓦づくりだったので空襲にも外壁だけが焼け残つた

のではないかと思われるのだが、その建物の一部を区切つて、間口は狭くカウンターだけの、スツール（足の高い丸椅子）もないロンドン・パブ・スタイルで、それでも奥へ入るには、立ち飲みしている人と肩のふれ合う細長い酒場だつた。そういう人と肩のふれ合う細長い酒場だつた。そいえば、パウリスタの向かいを入つた「ギルビー」も、昨年店を閉じた。

食べる店を思い出すと、亡くなつた母は寿司が好きだったので、明石の「菊水鮓店」へ足を伸ばした。結婚してからも、明石ゆきはつづいた。のちにもう少し近くでとなつて、垂水の「増田屋」が加わつた。便利なところでは「青辰」。ここはいまも、昼まえに神戸にいると立ち寄る。トアロードから東へ三宮本通りを10軒目くらいの「千代寿司」も、この間まえを通つたら開店を待つてゐる4、5人がいて、変こつな主人を懐しく思つた。ラジオ関西の朝のスタジオでマイクに向かう前夜は、制作の人たちとハシゴをするが「金宝酒家」はお値打ちだつた。昔からの仲間といくのは「愛園」。ひとりでなら「神戸元町別館牡丹園」。豚の足かチマキが食べたいときは「梅春園」。横浜の中華街へはよくいくが、神戸のほうがくつろげる。

レストランは予約しなきやならないので、予定のたちにくいくことから機会が少ない。ついこの間はちょうど昼にゆっくり時間がとれそうで、南京街の「ビストロ・コム・シノワ」へいった。赤ワインを1本とつて昼まから飲みながら、2時間かけてゆっくりと料理をたのしんだ。店のマダムは顔みしり、ときおり話相手になつてはくれるが、やはりひとりの食事はわびしい。「いいワインがあつて黙々とじゃねえ」といたら、隣りの席で

母娘の母親のはうがにっこりうなずいてくれた。あの人とオシャベリしながらだつたらなア。そういえば、アランで二人づれのご婦人もこちらを意識してたような気がしたけれど。（エエカッコ、イウナ）

この間ポートピア・ホテルの「アラン・シャペル」から、アラン氏がリヨン近郊からやってきての料理をどうぞと案内がきて、東京では食べられないのだから飛んでゆきたかったが、都合がつかず、くやしかった。値段も適正だった。神戸の人々が羨しいナ。以前ここでワインの話をしたとき、六甲の医師、田中さんご夫妻があと食事に招いてくださいました。最高の料理をいただきながら、こうした出会いをありがたいと感謝。このレストランのシェフソムリエ木村克己さんは、昨年度の国内

コンクールで最優秀ソムリエを獲得。パリでの国際コンクールに日本代表として出場四位に入賞。私は日本ソムリエ協会の機関紙を編集している。ワインを通じての友人だが、何よりも嬉しい。

「ジャン・ムーラン」は、人名をとったこの店の名がまず好きだが、そのわけは言えない。小田さんと熱っぽく話したことがある。小田さんはあまり味のわかる人ではないが、私の横浜の家での

ワインパーティーにも二、三度お招きした。この店と「ビストロ・ドゥ・リヨン」は、とておきの店として。しかし気楽にフライといつでもとなれば「ドンナロイヤ」か「伊藤グリル」それに「ロック・キャビン」あたり。そういうえばこの間「ハナワグリル」を探してそこになく、そのあたりの人間に聞いたらよそへ移ったとかで食べそびれた無念さがまだ残っている。本店へはまだだが、東京の赤坂で満喫しているのが「海皇」。一番お安いのも、一番お高いのも食べてみたが、どちらも納得した。ワイン仲間の食通も、ここはおすすめだという。フランスへゆくとパリであれ田舎であれ、星の店を毎日のように食べ歩くが、日本ではそうはない。山本益博さんと共に見田盛夫さんから贈られた「グルマン1985」にのつてているレストランを、安い店から順番に、それも屋に限つて食べ歩いている。来年、定年を迎えてもしるるとへ帰つたとしたら、レストランの数がそう多くはないことが、私の唯一の嘆きとなりそうだ。

（筆者紹介）



昭和2年、神戸生まれ。竹中都、井上猪氏らのもとで雑誌編集を経て、神戸市社会教育課へ。昭和34年サンクトリー宣伝部へ入社。同40年東京へ転勤。『洋書伝来』等著書は10冊。日本ソムリエ協会顧問。日本ブルゴーニュ・ワイン協会常任理事。在横浜。



一人だけ エキセントリック

森下 悅伸

〔ラジオ関西報道制作部〕

「オレサ、スクールに入ったんだ。でもちつともうまくならないの。何かいい方法ない?」セキハラ君が例の調子でタケシさんに聞いている。フジムラは先つきから刺し身に夢中になっている。

「あつそれから、カレイ焼いて下さい。ウーンあれのタタキも」「ちょっととは遠慮しろよ」そう言おうと思つたけれどボクもモーレツにハラがへつていたので『アジのたたき、もう一人前それにタコ。タコの刺し身作つてヨ』どこといってとり得のないおじさんに注文した。ボク達のグループだけが騒がしかつた。タケシさんは少し酔つてきたみたいで『昔ネ、オレ本当に女の子に縁がなかつたんだ。だから今ネ、たのしくて。サインして下さい、なんて言われるともう真剣にしゃうよネ』『ヘエーそんな風には見えないけど。ずーと好きなオンナがいるみたいだ。』『人は見かけによらないからネ』モリあがりかけた会話はセキハラ君の『この業界で誰がうまいの?』といったひと言でテニスの話に戻つてしまつた。『ヨシタカさんもうまいヨ』ボクが言うとタケシさんは『そなんだ。ヨシタカさんどんどん前に出てくるの。アグレッシヴなテニスするヨ』『ボクね、トップスピロブつてあるでしょう。あれバックハンドで打

つの夢なんだ。レンドルなんかよく使つてゐるあれ』ステイーム・ボイラーを飲みながら話してくれたヨシタカさんの赤い顔を思い出した。『マサトシさんネ、あの人宮城出身で高校時代バスケットボール部のキャプテンしてたの知つてた?それで県大会でいいとこまでいったんだって。それで慶應入つた時も本当はバスケットしたかったんだけれど、体育会のしんどさ知つてから、結局E・S・Sに日和つたつて。体育会に入つてた人つて独特のファンイキあるでしきう。死ぬまでヤルつて感じで。テニスした時もフラフラなんだけれどヨシもう一本なんて、病氣だよ』『その感じよく分かるけどさ。結構いるんだ。そんな人』タケシさんはずっとワインを飲んでいる『このワインはまずいよ』そうい的ながら又おかわりしている。『モリシタさん知つてると思うけど、なんとかオーブンつて、暗いもんね、だいたいがクレー・コートでさ、それに地味なんだ。服装なんか高校生がよく着ているアシックスのウェア。不思議にそうなんだ。たまにフィラなんか着てる人いるけどサ、だいたい一回戦で負けちゃうしね』そうなんだ、ボクも試合に出る時はメーカーも分からぬ白いウェアに決めている。きっとタケシさんもそ



うしてたんだろう。テニスに憑かれたオトコ達が
出場する小さな大会。そんな小さな大会の魅力は
決してツユリさんにもフジムラにも分らないだろ
うと思った。ウイスキーはしだいにボクの頭を満
たし始めた。タケシさんはその後もワインを飲ん
でいるようだった。

『セキハラ、どうして今日はオンナいないの？

きっと女子大生の三、四人呼んでるかなと思つて
たけど』 そうだ今日はこの業界にしてはめずらし
く、オンナが一人もいないんだ。どうしてだろう
と思つていると『モリシタさんが真剣テニスだな
んて言うもんだからオレ、遠慮しちゃって』 セキ
ハラ君があやまっている。『なんだ、オレそんな
事言つたか？ ちがうよテニスする時はオンナは
いらない。テニスが終わればオンナはいた方がい
いよ。そういうつもりだったんだけど』 そんなこ
とを言つていると、突然うしろのドアがあいて美
しいオンナがあらわれた。酔つているから美しい
と思つた。タケシさんの顔が一瞬、輝いたようだ
った。『オンナやっぱりいた方がいいデスヨネ。
オレ悪いかなって思つたけど声かけておいたの』
セキハラがうれしそうにタケシさんに言つた。ス
ポーツ・酒・オナ・タaimingは完璧だった。

『まるでジミー・コナーズのリターン・エースだ
な』 そう思った。もうすっかり酔いがまわった頭
の中に、いつものようにジミー・コナーズがあら
われた。コナーズになりたくて芦屋のコートで壁
打ちをくり返していたボクとギエルモ・ビラスを
軽々と打ちくだいたコナーズとが思い出の中でオ
ーバーラップしていた。テニスは知らなかつたけ
れど、熱い想いだけはボクの心にあふれていた。

コナーズが華麗にステップを踏んでいる。タケシ
さんは美しいオンナとしゃべっている。フジムラ
は焼きカレイを喰つてゐる。ミズカミ君は美しい
オンナとタケシさんを見ている。酒はますますま
わってきた。『フジムラ、もう喰うな！ タケシさ
ん又テニスしようヨ、セキハラ今日はありがとう』
昔、別れたオンナに逢いたいと思つた。死んだ
オヤジに逢いたいと思つた。『タケシさんオレ、ソ
ロソロ帰る』 みんなにサヨナラして外に出ると雨
が降つていた。ネオンの光に降つてくる雨はきれ
いだった。この頃スポーツの事ばかり考えている
みたいだ。『3キロ泳いだヨ』 『最近毎日走つて
るんだ』 『こんど宮古のトライアスロンに出るこ
とにしたヨ』 みんなスポーツしてゐる。まるで命と
ひきかえにスポーツしてゐるみたいだ。『麻ヤクと
一緒だナ。ヒヨイと死んでしまうんじゃないかな
……。そうなんだスポーツに憑かれる、みんな
ヒヨイと死んでしまうんだ。本当に死んでしまう
んだぞ。ボクもきっとそうなんだ、僕もきっと…』
頭はすごい勢いで酔つていて。さつきの美しいオ
ンナの顔が浮んだ。タケシさんとしゃべつてゐる
横顔はきれいだった。『美しいオンナだけがいつ
も幸せなのかもしれないな』 そう思つた。美しい
オンナだけが誰にも邪魔されず幸せなのかもしれない
。タケシさんも、きっと分つてゐるんだ。

雨はますます激しくなつて、夜の大坂の街はに
び色にくすんでいた。

*

*

*

タケシ（スクエアのリーダー伊藤たけし。最近「スポーツ」というタイ
トルのL.P.をリリースした）セキハラ（CBSソニープロモーター）フジ
ムラ（ラジオ局ディレクター）ユリ（ラジオ局ディレクター。男子中・高卒で女性に對して「イビ」）ツ
タカ（南佳孝。ロマンチズム、モノローウォークの作曲者）マサトシ（あ
の中村俊彦さん）ボク（モリシタヨシノブ38歳）ステーム・ボイラーバーボンウイスキーをビールで割つた飲みもの。

美しさには理由(わけ)があります。

綿、麻、ウールなど素材をこえてサマースーツをイキに着こなすためにニシジマでこまめなリフレッシュを。



サマースーツはプレスがポイント

- サマースーツは素材そのものが冬物にくらべ薄いため、ベタンとなりがちです。
- 美しく着こなすポイントは立体感をもたせたプレス。
- 肩、胸、腕、背中、腰など、それぞれにまろやかなボリューム感を。
- 夏ものは、こまめなクリーニングとプレスが必要です。



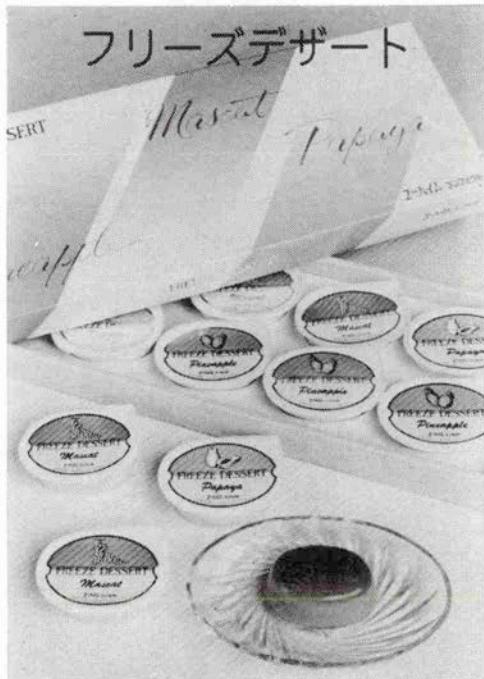
本社／神戸市灘区記田町1丁目2-16
078-851-2440

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん店/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ/078-332-2440
■山手店/078-221-2440 ■宝塚店/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

さわやかな
フルーツシャーベット！

-----新発売-----

フリーズデザート



パパイヤ、マスカット、パインアップル
10ヶ入¥2,000 15ヶ入¥3,000

冷凍してお召し上り下さい。

——北欧の銘菓——

ユーハイム・コンフェクト

本社・神戸市中央区熊内町1-8-23 ☎221-1164

△その79▽

江戸と東京の水を想う

— 東京都水道記念館 —

米花 稔

△神戸大学名誉教授▽

NHK朝のニュースのはじめに、いつも新宿の高層ビル群の画像をみせて気になるが、それはとにかく、その副都心のビルの一隅に「東京都水道記念館」のあるのを御存じであろうか。新緑の賑う午後、四〇階の新宿国際ビル一階のフロアの一部にあるここを訪ねたとき参観者は自分ひとりでひつりしていた。

昭和四〇年まで新宿区など東京八区のための淀橋浄水場跡がこの

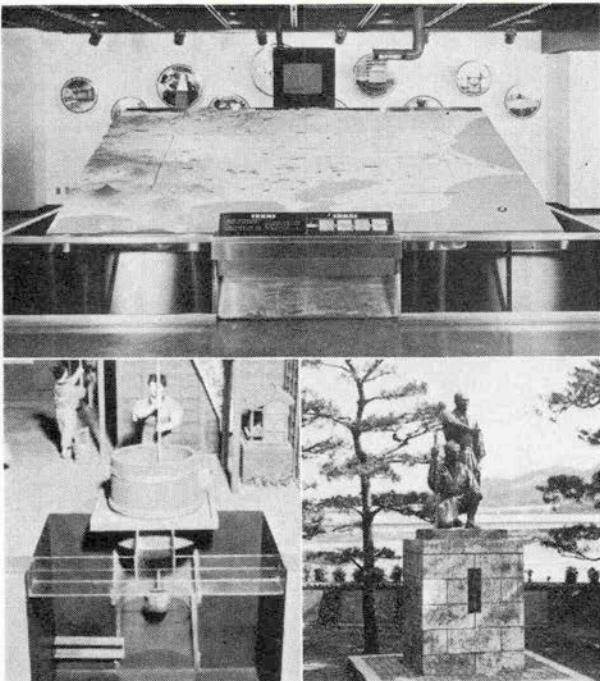
副都心に生れかわったのは知られているが、そのためのせめてもの由来を示す第二室「水道のあゆみ」により興味がある。江戸とい

う首都づくりに水不足のためのし

ばしばの上水道事業の展示など印象的でよい試みである。まず天正一八年（一五九〇）の神田上水が最初で、その後承応三年（一六〇四）の玉川上水が主軸となって、のちの本所、青山、三田、千川の四上水の試みのあったことなどを知る。

玉川上水については杉本苑子の小説「玉川兄弟」が面白いが、古く永井荷風の「すみだ川」岡本かの子の「河明り」近くは芝木好子の「隅田川」「築地川」などあり、最近朝日新聞の東京の地方版五〇回連載で川辺の暮しと江戸以来の由来をスケッチした「神田川」が新潮文庫で公刊（昭和六一年一月）されて眼にふれて興味深かった。辛口では東京への水供給のためのダム建設で沈んだ山梨県塩の小町内村をとりあげた石川達三「日蔭の村」も以前のことながら忘れられない。近頃は川への人びとの思いがとりわけ深いようである。

それにしては、その歴史のきびしさ、現在の副都心づくりの規模、今日の首都という位置からみて、この記念館の規模、内容にも足りなさを感じ、より感動的な工夫があつてもよいのにならうか。とはいへこんなことをそこはかとなく想起させてくれたのはやはりこの「東京都水道記念館」であつた。



関東地型模型(上) 玉川兄弟の像(下左) 江戸時代の上水のしくみを模型で紹介(下右)